

仙台・文化財サポーター会活動記録（保存継承部会）

・2026年6月19日(金)

13時～15時

・参加者は15名

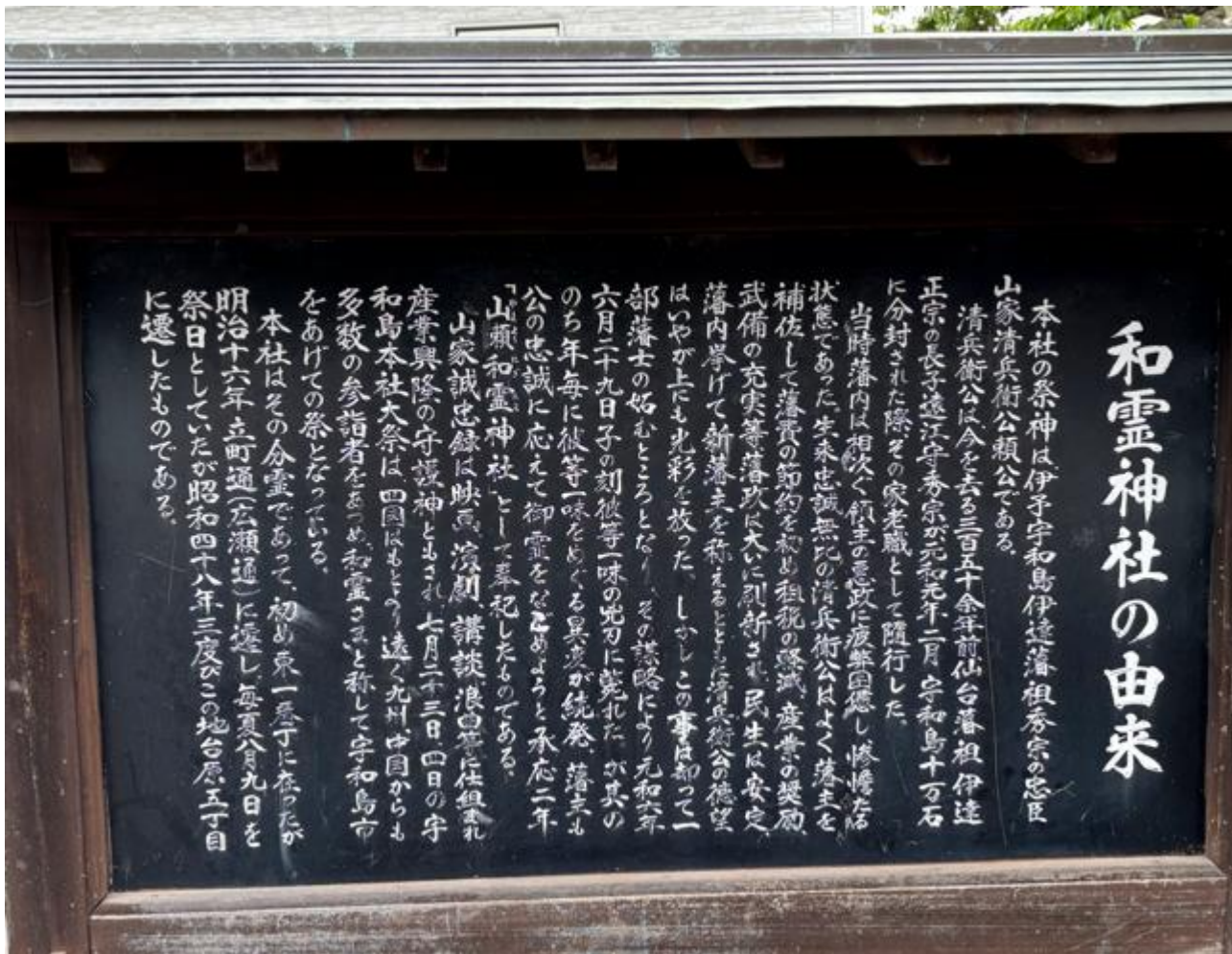
仙台のダークな伝承を探るシリーズ。今回は4月の座学、5月の一番町和霊神社参拝に続いて3回目。今回も菊地さんの案内で、いよいよ「台原和霊神社」を訪ねます。

13時に七十七銀行本店前に集合、①台原和霊神社に加え台原地区の②「元天神」と③「萬寿寺」も合わせて巡見し15時に解散しました。

①台原和霊神社

台原地区の住宅地の中に位置していて、現在山家清兵衛15代目子孫が住んでいる敷地内に鎮座し守られています。

前回の報告の中で、山家清兵衛公と和霊神社については詳しく説明しましたので、今回は神社に掲示されている『和霊神社由来』についてご紹介します。



『和霊神社の由来（上記掲示内容を転記）』

本社の祭神は、伊予宇和島伊達藩祖秀宗の忠臣山家清兵衛公頼公である。

清兵衛公は、今を去る三百五十余年前、仙台藩祖伊達政宗の長子遠江守秀宗が、元和元年二月宇和島十萬石に分封された際、その家老職として隨行した。

当時藩内は相次ぐ領主の悪政に疲弊困憊し、惨憺たる状態であった。生来忠誠無比の清兵衛公はよく藩主を補佐して藩費の節約を初め租税の軽減、産業の奨励、武備の充実等、藩政は大いに刷新され、民生は安定、藩内挙げて新藩主を称えとともに清兵衛公の徳望はいやが上にも光彩を放った。

しかしこの事は却って一部藩士の妬むところとなり、その謀略により元和六年六月二十九日子の刻彼等一味の兇刃に斃れた。が其ののち年毎に彼等一味をめぐる異変が続発、藩主も公の忠誠に應えて御霊をなごめようと承応二年「山頼和霊（やまよりにぎたま）神社」として奉祀したものである。

山家忠誠録は映画、演劇、講談、浪曲等に仕組まれ産業興隆の守護神ともされ、七月二十三日、四日の宇和島本社大祭は、四国はもとより遠く九州、中国からも多数の参詣者をあつめ「和霊さま」と称して宇和島市をあげての祭となっている。

本社はその分霊であって、初め東一番丁に在ったが明治十六年立町通（広瀬通）に遷し、毎夏八月九日を祭日としていたが昭和四十八年三度この地台原五丁目に遷したものである。』

○鳥居と社殿



○仙台空襲で見つけ出された 2 体の狛犬は、現在も守護の役目をはたしています。



②元天神

- ・小松島公園の西 200m 程のところ薬科大学の南に天満宮の小社があります。もとは長命荘といわれた住宅地、今は小松島三丁目に鎮座。
- ・ここに文永元年（1264）天神社が創建され、慶長十六年（1611）現東照宮の地に移転、寛文七年（1667）東照宮創建のため再び榴ヶ岡に移転しています。
- ・従ってこの地は元天神といわれ、現小社は地元民によって尊崇維持されています。境内に菅廟碑が明治 41 年（1908）建立され、由緒が刻まれています。



③萬寿寺

- ・萬寿寺は四代藩主綱村が、元禄 9 年（1696）月叟道稔を開山の祖として建てた黄檗宗の寺で、開元山と号し、京都宇治萬福寺の末寺です。本尊は釈迦牟尼仏。
- ・綱村夫人仙姫は小田原城主稲葉氏の娘で稲葉氏は黄檗の信者だったので、綱村は夫人と共に黄檗僧の法話を聞き、月叟を招いて萬寿寺を建造。
- ・当時新たに寺を建てることは幕府から禁じられていたので、加美郡黒沢（現色麻町）の廃寺安養寺を仙台に移し、萬寿寺と改名した形をとりました。寺は七堂伽藍を有し壮麗を極め、十ヶ院を算える塔頭を有する名刹で、一門格に列され百五十石の寺領を附されています。
- ・宝永 3 年（1706）綱村夫人仙、姫が江戸で没し、萬寿寺に葬られ靈廟が造営。
- ・明治維新によって藩の外護を失い、現在の寺の西北にあった本堂、靈屋、塔頭など悉くの堂宇壊廃し荒れ寺となり靈廟の門は売られ一つは新坂町の大願寺、他は東九番丁の常念寺の門となります。
- ・稲葉仙姫の柩は昭和 35 年（1960）に掘り出され、榴岡五丁目の伊達家墓所に改葬されました。
- ・現堂宇は塔頭の一つであった三昧院のあった所で僅かに法灯を維持してきましたが、再建の計画をすすめ檀家の協力もあって平成 3 年（1991）本堂が新築。ついで立派な山門が建造されています。

（案内版）

『黄檗宗開元山萬寿寺の歴史』

仙台藩田代藩主伊達綱村公正室稲葉仙姫の菩提寺



○山門



○本堂



○最後に

3回シリーズとなった山家清兵衛公にまつわる歴史探訪は今回が最後になります。

これまでも通りがかりに和霊神社の案内板を目にし、その時はそれほど興味がそそられることはなかったものの、昨年宇和島城に行く機会があったことや、そのツアーのメンバーに山家清兵衛公の子孫がいたことで興味が湧き、私にとって山家清兵衛公について深く知る貴重な機会となりました。

話は変わりますが、昨年の青葉まつりに宇和島の「牛鬼」が特別参加して、ご覧のような壮観な光景を見せてくれました。



宇和島では 7 月の和霊神社大祭に合わせて牛鬼まつりが開催されます。鬼のような顔に長い首を持つ巨大な山車、「牛鬼」を男たちが操り町を練り歩き悪霊退散、厄除けを願います。

もしかしたら、このまつりにも山家清兵衛公の影響があるかもしれませんね。

以上 本多正明（記）

（参考資料）

- 青葉の散歩手帖